

歌集『若きウタリに』紹介の序章

正しいタイトルは、「バチエラー八重子著 歌集『若きウタリに』紹介の序章」です。著者は岡田三朗さん。今週の市議団ニュースでは、この本をご紹介します。（鈴木一彦）



著者の岡田三朗さんは1931年（昭和6年）根室で生まれ、現在は札幌にお住まいです。歌人で、短歌誌『歌群』に10年間にわたり連載・執筆されてきた評論を、この度一冊にまとめ、本年7月31日に発行されました。B5版64ページ。

タイトルにあるバチエラー八重子とは、アイヌの歌人です。岡田さんの誕生年でもある1931年、短歌の歌集『若きウタリに』が出版されています。本の内容の詳細については「ネタバレ」になるので触れませんが、アイヌ民族の歴史（迫害と抵抗の歴史）を中心とした、岡田さんの視点による、日露戦争までの北海道の歴史です。根室の歴史にも深い関わりがある近藤重蔵、大黒屋光太夫、ラクスマンらも登場します。

岡田さんご本人が根室出身なので、根室の描写もあります。抜粋します。

車に乗れという。ノッパ岬に連れてゆくと云う。根室在住の私の妹の夫君、〇〇氏（本では実名ですがここではふせます）。中標津空港まで迎えに来てくれたが安全運転が安心だった。根室港を後にして根室半島の沖はガスっぽく国後島も見えぬ。一番川、二番川と小さいころの記憶を過ぎる。と、左に矢印「ノッカマップ岬」の標識。行こう。下車。けもの道の様な草に覆われた中を行くと立木を透かして燈台の頭が見えて来る。しかし、これが当時のチャシだと訴える姿も判らず、草木の先に海が濃霧にけむっているだけだった。（中略）

この地、道東根室半島の一画、ノッカマップに立ち、二百年を過ぎる星霜に壮絶な思いが脳裏を駆けける。車に戻る。少し過ぎると、ノッカマップ岬の全景が入江の向こうに眺望出来た。望遠レンズでカメラをのぞく。この世を

れが闘いに備えたチャシの姿。シャクシャインの闘いから学び、松前藩に対する対鉄砲対策を考え、古いチャシに新しく手を加えたものだ。

この岬のあたり、どこか、大きな穴に埋められた三十七体、それはいまだに発見されていない。（後略）

また、市内の町名が「まち創りに功労のあった役人の姓や名を功績を讃えて町名とした」ことも詳しく紹介しています。松本町、松本十郎、平内町、折田平内、光和町、羽山光和、定基町、湯地定基、清隆町、黒田清隆の五町についてです。

横道にそれますが、岡田さんは作詞もされています。9月29日に行われた「ほほえみコーラス第21回定期演奏会」で演奏された「ニムオロ・ネムロ」という曲は岡田さんの作詞です。1番の歌詞を紹介します。

美しく咲く 水芭蕉
千鳥桜の うす化粧
友知草の ちりばめに
ニムオロ ネムロ 人の世を

作曲者は浅海英男と記されています。

岡田さんはこのほかに「根室港」（曲：浅海英男）、「木漏れ日」（同）、「望郷の詩」（曲：塩川哲男）を作詞されています。

「横道」から戻ります。紹介しきれませんが、最初から最後のページの「あとがき」まで、心に残る文章、胸を打つ言葉がたくさんあります。アイヌ、北海道の近代史に興味をお持ちの方に、ぜひ手に取っていただきたいと願っています。岡田さんによると、緑町の榎（かや）古書店に在庫があるようです。頒価700円。

最後の一文を紹介。ご一緒に九条守ろう。

